

組み込み開発

組み込み機器向けデータベース「db4o」の新版が公開, テレマティクス市場を視野

2006/11/16 22:58

組み込み機器向けデータベース「db4o」を手掛ける米

[db4objects, Inc.](#)は、その最新版となるdb4o Version 6.0を公開した。既存のdb4o Version 5に比べてデータの更新や読取などの動作速度が最大10倍速く、必要なメモリ容量を10分の1にできるとうたう(発表資料)。db4oはもともと、競合の組み込み機器向けデータベースに比べて、動作速度やメモリ消費量の点で優位性があると訴求してきた。競合のデータベースの大半がリレーショナル型であるのに対し、db4oはリレーショナル型に比べて処理のオーバーヘッドを減らせるオブジェクト型であるためだ。db4objects社は今回のdb4o Version 6.0の公開によって、よりdb4oをさまざまな組み込み機器に適用しやすくなるとする。「コピー機や携帯電話機などに加えて、カーナビなど規模の大きなデータを扱うテレマティクス分野にも十分適用できる」(db4objects社)。



米db4objects社のWWWサイト

組み込み機器市場におけるデータベースは、現在のところ自前で構築するケースが少なくない。しかし規模が大きくなるにつれて、データベースの自前主義では立ち行かなくなりがちだ。db4oは、これまで自前で構築してきたこうした潜在ユーザーへの浸透を狙う。組み込み機器の性能向上を見据えて、Javaおよび.NETの実行環境で動作するようにした。

なおdb4oは、オープンソースの開発手法を採っている。ユーザーなどが参加するコミュニティの場で、開発の方向性などを議論し、これに基づいてdb4objects社がソースコードの改良を手掛ける。ソースコードはGPL(general public license)の下に公開されるほか、db4objects社は商用ライセンスを提供する格好である([db4oのダウンロード・サイト](#))。

db4oはこれまでに、複写機や自動車、ソフトウェア開発ツールなどで導入が進んでいるという。例えば米Boeing Co.やドイツRobert Bosch GmbH, 米Intel Corp., ドイツSiemens AG, 米Seagate Technology, Inc., リコーなどが採用済みだ。

掘切 近史=日経エレクトロニクス



この記事のURL: <http://techon.nikkeibp.co.jp/article/NEWS/20061116/123820/>

Copyright © 1995-2006 Nikkei Business Publications, Inc. All rights reserved.

このページに掲載されている記事・写真・図表などの無断転載を禁じます。著作権は日経BP社、またはその情報提供者に帰属します。